

霧島市地方創生有識者会議（第1回転入促進・転出抑制合同会議）要旨

開催日時	平成27年7月21日（火）13:30~17:00			
開催場所	国分総合福祉センター 3階 大会議室			
出席者	会議有識者部会	槐島研究部会長、福島研究副部会長、猶木委員、山尾委員、鈴吉委員、小山委員、猿渡委員、古賀委員		
	門推進本部専	西溜部会長（中山間地域活性化G長）、寶徳副部会長（生活環境政策G長）、竹下委員（保健福祉政策G長）、濱崎委員（企業振興室長）、野崎委員（商工観光政策G長）、赤塚委員（教育政策G長）、鎌田委員（農林水産政策G長）、山下委員（農政第1G長）、藤崎委員（企画政策課長補佐）		
	事務局	松永企画政策課主任主事		
	その他	（株）鹿児島経済研究所 眞竹		
公開・一部非公開又は非公開の別		公開	傍聴人数	5人
<p><u>会次第</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 合同会議の進め方等について 3 「霧島市人口ビジョン」に係る基礎資料について 4 自己紹介 5 「(仮称)霧島市地方創生総合戦略」に係る意見交換 6 その他 7 閉会 				
<p><u>意見交換の要旨</u></p> <p>○観光面から交流人口の拡大について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従前のマス・ツーリズム型から旅行者のニーズは多様化してきている。 ・霧島にはいい素材がたくさんある。従前の観光行政に捉われず、足元にある素材を見つめ直す必要がある。 ・バス等の交通インフラの利用方法がわかりずらく、ビジネスや旅行者等にとっては空き時間を活用した効率的な行程が立てづらい。空港を起点としたアクセスが悪い。 →温泉や飲食店等を利用してもらう機会を失っている。 ・学生など若者にもあてまることだが、市内住民と市外住民で視点が違う。 →地元の良さに気付かない。素材を活かしきれていない。（鹿児島県全体に言えること） ・新たな発見を意識する必要がある。訪れたものに感動を与える何かが必要。（例：福山の黒酢） ・県内観光の人の流れ （従前）霧島温泉 - 指宿温泉、霧島温泉 - 指宿温泉 - 屋久島 等 （現在）鹿児島市 - 霧島温泉、鹿児島市 - 指宿温泉、鹿児島市 - 屋久島 等 ・顧客満足度を突き抜けた感動・価値が必要。 →感動をキーワードにリピーターを増やすべき。 ・良いものはたくさんある。点から線、面への展開。 →目玉（霧島にしかないもの）のリスト化（例：龍馬の新婚旅行、甕穴群等） 				

→ストーリー（物語）化

→パッケージ化

- ・情報発信手段（若者に繋がる手法は何があるか）。

→フェイスブック、ラジオ、SNS、インターネット等で工夫できないか。

→学生の力や、教育機関との連携で何か出来ないか。

- ・ハロウィン事業による交流人口の拡大。

- ・タクシーチケット（人吉）

→約5000円で半日乗り放題

→温泉や葡萄狩りなどで時間を有効に活用できる

- ・負担を感じない旅行費用等のスキームを構築（湯布院）

→毎月少額の口座引落→なかなか手の届かない豪華な旅行プランを提供

- ・地元の人にとって当たり前なのが外から来た人にとっては意外性がある。

→例：佐賀市の麦秋カフェ

○転入促進について

- ・アンケートによる転入の理由→進学、就職を転機とした転入の割合が多い

- ・霧島市の魅力を感じて転入する人の割合をどう増やすか

→モノの便利さを求めるのではなく、生きる価値等を見出す人に何を提供できるか。

- ・子どもをもつ世代など若い人をターゲットにしたメニューで何か出来ないか。

（若者が経済的に自立できる働く場や、住みやすい環境が必要。）

→昨今増えているシングルマザー等の層を意識した策（ローン等の優遇制度等）

- ・農業に興味がある人への対応

→現実問題として、経済的に自立するにはハードルが高い

→平野部等で条件のいい農地もなかなかない

→行政や金融機関によるバックアップが必要である

→短期、長期に捉われない農業研修、農業体験の場を提供し、農業を肌で感じてもらう施策が必要

- ・IT関連のインフラ整備を推進し、中山間地域で起業し、所得を生み出すことが環境整備ができないか

→例：徳島県神山町

- ・首都圏⇄地方の図式だけでなく地方間における人口異動についても対策する必要がある

- ・体験してみて初めてその良さが分かることがある

→ホームステイ、ファームステイなど積極的に展開すべきでないか。